

水をそうじする小さなヒーロー！？

SDGsラジオを聞いてみよう！

「日本の水はきれい」と聞いたことはありますか？

日本には、汚れた水をきれいにする施設や技術があり、世界の中でも数少ない「水が安全」な国のひとつなんです。

私たちがくらす中で使って汚れた水「廃水」は、川や海など、地球の大切な水を汚す大きな原因になっています。

そうすると、そこにすむ魚も汚れ、それを食べる人の健康にも影響が出てしまいます。

そこで、水のお医者さん「オルガノ」では、さまざまな技術を使って、汚れた水をきれいになっています。

たとえば、汚れた水をきれいにする施設では、ちょっと意外なモノが使われています。

なんと、目に見えない小さな生きもの「微生物」に、水の中の小さな汚れを食べてもらって、水をきれいになっているんですよ。

こうした技術があるから、日本では、安全な水が守られているんですね。

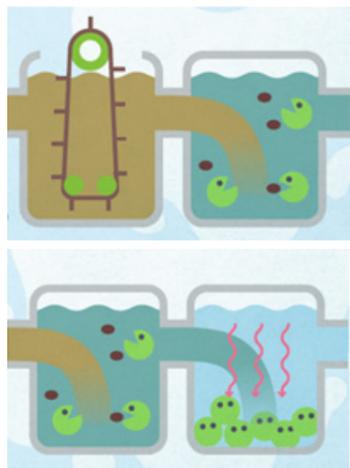
では、世界の国では汚れた水をどのようにきれいにしているのか、調べてみましょう。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！



画像参照：水道から出てくるきれいな水のイメージ

私たちが毎日使うお風呂やトイレなどの水は、汚れた水となって流れていきます。この汚れた水は「廃水」とよばれ、そのまま流すと川や海を汚し、自然や人の身体に悪いことをひき起こします。そのため、汚れた水をきれいにしてから自然に返すことがとても大切です。私たちが毎日使う水がきれいに保たれているのは、この廃水を川や海にそのまま流さず、きれいにするしくみが整っているからです。そのしくみを支えている会社のひとつが、水のお医者さん「オルガノ」です。



画像参照：汚れた水をきれいにする微生物

(オルガノSDGs教材「廃水」授業スライドより)

オルガノは汚れた水をきれいにする技術を持っており、その中のひとつに「微生物」という目に見えない小さな生きものの力を使った方法があります。まず、廃水の中にある大きなゴミを取りのぞき、水にまざっている小さな汚れを微生物に食べてもらいます。その後、微生物と汚れがいっしょになったかたまりを底に沈めることで、水をきれいになっています。このように高い技術があることで、安心して水を使うことができます。日本でくらししていると、蛇口をひねるときれいな水が出てくるのがあたりまえのように感じますが、世界に目を向けると、水がかんたんに手に入らなかったり、汚れた水をきれいにできない国や地域もあります。世界では汚れた水をどのようにしているのかを知り、水の未来を守る大きな一歩になります。

キーワード

水をきれいにするしくみ

水の中にまざっている「汚れ」や「菌」などを取りのぞき、目的に合わせて安心して使えるようにするための施設や技術のことです。

廃水

お風呂やトイレ、台所などで使われて、汚れてしまった水のことです。廃水には、食べもののかすや油、洗剤の成分、目に見えないバイ菌などがふくまれています。

微生物

目には見えないほど小さな生きもののことです。水や土など、身のまわりのさまざまな場所において、自然の中で大切なはたらきをしています。

対象ゴール



みなさんにできること！

世界の国や地域では汚れた水をどのようにきれいにしているのか？ 調べてみましょう。

- おさらい
- お風呂やトイレで使った廃水をそのまま川や海に流すと、自然や人の身体に悪いことをひき起こす。
 - 汚れた水をきれいにする施設「下水処理場」では、さまざまな技術が使われている。
 - 世界には、水がかんたんに手に入らなかったり、汚れた水をきれいにできない国や地域もある。

メモ



SDGs ラジオ